

東京歯科大学同窓会会報

東京都千代田区神田
三崎町一ノ七
発行所
東京歯科大学同窓会
編集兼 関根永滋
発行人 電話東京(301)3421(代)

第六十七回同窓会総会

前日に東京歯科大学学会総会開催

前号において予報致しました如く、本年度の同窓会総会は十一月十二日(日)に開催されます。

また前日の十一日(土)には第一五五回東京歯科大学学会総会が母校講堂において午前九時より午後五時まで開催されますが、今回は、母校教授金竹哲也氏(アマルガムに関する諸問題)、ならびに同教授鈴木弘造氏(口腔疾患と臓器反応)に御講演をお願いすることになっております。全国同窓各位におかれましては、総会並びに学会の講演に是非共御出席し、特に東歯同窓会員のために、

お話ししていただくことになりまし
た。

たお願い致します。

全国評議員会及び支部長会開催御通知

来る十一月十一日(土)午後二時より母校において、東京歯科大学同窓会全国評議員会及び支部長会を開催致します。

御多忙中誠に恐縮乍ら御出席下さいませよう御通知致します。
昭和三十六年十月十五日

評議員
支部長 殿

同窓会会長 矢崎 正方

第六十七回総会開催御通知

左記次第により第六十七回東京歯科大学同窓会総会を開催致すことになりました。多数会員各位お誘い合せの上御来会下さいませようお待ち致します。

一、日時 昭和三十六年十一月十二日(日)午前十時～午後三時

一、会場 母校講堂

次 第

○午前十時開会

一、開会の辞 一、会長挨拶 一、報告 一、議事 一、その他

○午後一時～三時

講演「医療制度と社会保障はどうあるべきか」 日本医師会々長 武見太郎氏

昭和三十六年十月十五日

東京歯科大学同窓会会長 矢崎 正方

会員各位 殿

同窓会総会終了後参加者に豪華賞品の当たる抽籤会を行ないますので、是非御参加下さい。なお例年の通り器械材料の展示即売会を開催致します。

講演会開催のお知らせ

このたび同窓会では左記の諸氏をお迎えして講演会を開催致しますので御案内申し上げます。会員諸氏の多数御来会をお待ち致します。

日時 十月二十四日(火)午後六時半より

会場 母校講堂

演 題

「医療費問題について」

昭和三十六年十月十五日

日本歯科医師会会長 河村 弘氏
日本歯科医師会専務理事 五十嵐 堯 昭氏

東京歯科大学同窓会会長 矢崎 正方

同窓会各位 殿

礼して連休で白浜帰りの酔っぱらいの多い汽車ポッポで往路の倍位の時間、煙になやまされ乍ら天王寺駅に辿りついた。大阪の中の島ビル街、阪大、新大阪ホテル等皆浸水した大ビルの中で、関西電力ビルだけが一滴の水もビルの中に入らず地下三階の大ビルが美しく光っていた。天災

北陸風害見舞記

教授 米 沢 和 一

(一) 出発
去る九月十六日(土)の第二室戸台風は、鹿児島、四国を通って近畿地方に上陸し、大阪を中心に兵庫、和歌山にその爪あとを残し、日本海に抜けた。その余波が、北陸や奥羽、北海道の西岸を一なめにした。

常に、母校出身者に気を遣っている東京歯科大学法人常務理事会では、榎本理事、福島学長、斎藤・溝上両副学長、杉山学監、大井院長等列席の下、九月二十日(水)午後、台風見舞に、取り敢えず教授級の現地派遣が議せられた。

翌二十一日(木)早朝、渡辺悳教授は関西へ急行された。戦後の福井の震災、魚津の火災見舞の経験のあるわたしに、三度び北陸行の急命が下り、日本歯科医師会坂本事務局長のアドバイスを受けつつ、唯一の交通路たる東海道回り、当夜八時十五分東京駅を後にした。

福井・石川県下

九月二十二日(金)四時半、米原で急行「月光」を降り、十五分後に着

も恐ろしいが、人の力で守れば守れない事もないので考えさせられた。この御見舞に当り特に御協力と御高配を賜った小室、秋岡、沢田、伊東氏の御芳情に深謝し被害を受けた同窓各位に心から御同情申し上げ一日も早く御健勝に御復興なさらん事を祈り筆を擱く。

「能登」に乗り込んだ。福井・石川・富山行の人で始発の東京から、すでに立錐の余地もない有様で東京では即座に座席指定が取れなかった為である。立ちつづけ六時敦賀に下車。

今般は、講演でも招待でもなく、大学からの見舞なのである。一切同窓に迷惑をかけない信条であり、拙速主義で飛び回り、被害甚大と聞いた新潟県へ早く入りたいたのである。車をひろって、まず福井県嶺南地区の属の要に当る敦賀の岡田歯科へ向

った。早朝の駆け込み、当主、岡田太一君は迷惑の色も面に表すことなく、舎弟、手鹿正24や山口一郎の両君も馳せ参じてくださったので見舞の口上を述べた。その席で小浜の西尾武仁太郎氏(9)の窓ガラスなどの被害をのそいて、人と診療室に異状なき由。朝食をいただいたて早々に武生の向笠澄6氏宅に向う。

武生でも、敦賀同程度の被害と聞き、胸をなでおろした。電車で福井の五十嵐嘉秋7支部長宅に赴く。山

口玄洋君8のカーで厳父州一(38)氏と久方ぶり対面してご健勝を祝し、嶺北四名の被災者のうち、五十嵐君岡田種義氏(14)や大野好幸(2)、大三郎16父子宅を巡回見舞した。また台風二日前の九月十四日逝去された斎藤良三君の霊前に額づく。同君には既に今夏福島学長北陸参上の節病床を見舞っておられる。吉田英二君8も昼食の席に駆けつけられた。郊外の大野市大和町の松田昭君24の被害のお見舞を電話で述べた。ついでに同市の元文忠男君25へも電話連絡した。同窓にはいづれも大被害のない事を確かめて石川県へ急行した。後で富山で本人から直接聞いたことであるが、丹生郡白山村葎蒲谷の篠山幹一君12からも、安泰の由承った。

小松で仲谷清次氏・純三23父子宅へ車で乗りつけた。当地は大聖寺の町名で知られた加賀市と金沢との中間にあり、福井県同様被害が軽かった。仲谷家一同の御懇情を謝し車窓から見る米所の水稲の倒れや、電柱、広告塔の傾斜が目だつのに胸を痛めつつ金沢着は午後六時。駅前

の堤防切れで、一時水びたしになった金沢銀座「香林坊」に程近い、長岡寛伯君14宅を見舞った。二階建て玄関に面した窓ガラス全部飛ばされた。今も残る広告灯の被害を見て、当時の惨状を偲ばせるものがあった。悪いことは重なるもので、わたしの到着の前日に、玄関へカーに

とび込まれて、重ね重ねの大被害。診療室はメチャメチャであった。応急修理もしてあったが、当分は、診療も不能の模様。御見舞の申し上げ様もない始末である。

前支部長であり、現県歯科医師会長芦本重雄氏5宅も犀川大橋の橋畔にあり、如何かと思っで行ったが、幸いに安泰。小立野台にある国立金沢病院歯科医長官舎の小林一郎氏2に車を回して学長の伝言をした。途中車窓から見た日本の三公園の随一である兼六園も、銘木が算を乱して倒れていると言った惨状。

中田支部長宅に戻って柿原不器郎氏2、津島邦俊13、長岡寛伯14西村寛猛2兄弟の諸君もおいおい参集され、夕食を戴き乍ら風害見舞母校の話やら、要望に花が咲く。当地同窓は毎月十四日(東歯)に同窓の集いがあり、研修と親睦を重ねながら母校を懐しんでおられる由、頭の下る思いがした。能登半島は、金沢にくらべて被災少ない由、安心して夜半宿舎に戻る。

(三) 富山にて
明くれば九月二十三日(土)は、彼岸の中日。連休めどに富山市で第十四回近畿・北陸地区歯科医学大会がある聞き、富山銀座「総曲輪」に程近い市公会堂へかけた。宿舎から、早朝魚津に住む赤祖父三郎(15)支部長に電話連絡しておいて、十時半会場へ乗り込んだ。すでに特別講演者河辺清治氏6の補綴の話が始まっていた。終ってから、同氏が母校を立つ時、学長宛、敦賀からわたしの第一信が二十二日正午届

いていたことを聞いて安心した。正午近く開会式あり、日歯会五十嵐堯昭11専務の顔も見えた。鹿島俊雄8参議院議員の挨拶もあった。大阪の小室史郎氏5より市内同窓の浸水状況をきいて胸をいため、殊に阪大医学部の地下室浸水に関して、中央臨床検査所や付属微生物研究所の被害に深く同情した。

昼食の休みを利用して島信行君26のカーで青木康三君26と同道して市内の大先輩藤井義人氏宅1を見舞った。脳軟化症で二年近くの病床。母校出身の二子に先だたれ今春夫人にも逝かれて、禄々口もきけないと言ったおさびしい状況。わたしの世話で養子、起三郎君(日歯大卒)夫婦が面倒を見ておられる。果物の盛籠と金一封を大学名でさし上げたところ大変感激の面持であった。高田尚文君11は中戦線でアメーバ赤痢にかかり、エメチン療法で中毒、両眼失明の人。目下、盲聾学校教師となり健在。先般、県下の同窓有志より扇風機を贈られ、大変喜ばれたと言う美談を島君から聞いた。

午後、同窓でもある小野寅之助大歯大教授の歯槽膿漏の特別講演、続いて日歯大・園山昇教授の口腔外科の話聞く。その間、石崎憲吾・護32父子、渋谷孝雄7、浦野潤30、金山嘉城36、倉田卓君26、厳父菅田晴山5、杉江玄照・玄己16父子、松島正康13、山崎安三4、柚木薫氏らに面接して、災害の軽かった事を喜びあった。

午後五時、神通川を渡って呉羽山頂上にあるヘルスセンターでの懇親

会に臨席した。会半ばにして、同窓有志と、神通河畔舟料亭「ちとせ」で鹿島君と私の歓迎会が開かれた。集う面々は米田祐弘8、金山晴顕、吉岡達雄6、菅野直紀11、田中直次9、赤祖父三郎15、青木進22、島信行18、宮本乙男18、栗山実純5、中川武8、島秀雄6、青木康3、関剛三郎8、深山正之13の諸氏。鹿島参議の挨拶にひき続き、わたしは台風の御見舞いを述べた。

高秀雄君のカーで富山駅へ行き、ようやく前日から開通した急行「北陸」で当夜帰京する鹿島君と同車して泊駅で途中下車し、隣り町の入善に住む舎弟、米沢清次医院に車をとばして一泊。

(四) 新潟県下の行脚

九月二十四日(日)は六時半入善発柏崎十時半着。難所の糸魚川、青海の中間、姫川鉄橋上の不通箇所は徐行で、前々日より漸く通れるようになった。電報で呼び出した井比孝君7と駅頭で上越地区の被害の軽微をきく。村上三郎氏(進学課程二年高垣順吉君の父兄)や市内の同窓大島稔(15)氏や勝海昇一8、吉岡敏雄10、石川東一16の諸君と料亭「みやこ」で昼食をいただきながら母校談に花が咲く。幸にして新潟の岡田信雄8支部長に電話連絡つき、最も被害の大きい中越地区三氏宅を行脚して見舞うことにした。

午後二時半、海岸沿いの新潟行の越後鉄道と言う名の気動車で井比君同道で稲扱機で有名な地藏堂駅に向う。駅前通りに住む専門課程二年竹

太加君の父山宮哲郎君11(西浦原郡分水町地藏堂二〇七六)を見舞った。新潟県下でも本地区は、風害の最も甚大などころであり、軒並に屋根がはがされていた。幸いにして同君は診療所安泰自宅はガラス戸をとばされた程度であったが、土蔵の傘を吹きとばされ、雨もりがしたり、山林の杉が折れて全滅と言った被害を受けておられる。町全体は稲扱機の積出しどころではない惨状である。

すでに夕闇迫る四時を打ったのでハイヤーを用意してもらって急ぎ山田利通氏4(三島郡和島村島崎)を見舞った。途中学校の全壊もあり新潟県下での被害第一人者との聞き込みで案じていた通り、山田氏宅の屋根が落ち、診療設備全滅の惨状であった。子息道夫君は、専門課程三年在学中。大学後期の授業料や臨床実習用器械セット購入に莫大の出費が追かけやってくることを思い出して心中暗然たるものがあつた。もっとも、父兄会や同窓会に被災者子弟の学資援助規定があり、帰省の上は本人を呼び出し、三年クラス主任嶋養弘助教(補綴)や長尾喜景学生部長(口腔外科教授)に相談する腹を決めた。

母校からのお見舞金一封を渡し、後髪を引かれる思いで山田氏夫妻のお見送りを受け、車を馳せて山田君11(三島郡与板町長丁)を見舞う。途中、先般の集中豪雨のため山崩れがあり、道路にはみ出しいたので迂回したりして、漸く着いたのである。消防団長の同君は、自宅の屋根の

とんだのを知りながらも町内被災者のためにとび回り、みすみす被災されたとのこと。幸いにして隣接の診療室が安泰であり、肥田漢の陽気な同君のお風呂上りの顔を見てホッとした。

お見舞言上もそこそこに、とっぷり暮れた信濃川の分水の土堤沿いに長岡に向った。駅前の堀田徳治8、武次郎8兄弟宅を見舞った。両君と不在であったので奥さんに来意をつげた。午後六時長岡駅で、同行の井比君と別れて独り新潟に向う。

駅前の近代式東映ホテルのロビーでは岡田支部長を中心に清水弥寿雄氏5や勝井義介11、宇佐美達23の両君がわたしの現われるのを待ちわびておられた様子。三階の予約シングルベットに荷物を放り出してロベールにおり、夕食を戴き乍ら本日の見舞状況を報告した。当日は日曜ながら先月発足した口腔外科研究会が新大医学部歯科(吉岡氏主宰)で本月例会が見えられ、百名の会員散会した直後であり、お見舞談やら母校談で一しきり眠った。午後八時過ぎ、散会して自室のバスにて入浴中、永井淳夫君27の来訪を受けた。前記研究会の戻り道、同一ホテル宿泊中とか。

連日の疲れが出たためかお話もそこに、快適のベットにもぐり込むや否や直ちに夢路を辿った。

(五) あとがき

明くれば九月二十五日(月)八時十分新潟始発の急行「佐渡」の車中の人となった。駅頭には、松川男児

11夫人が、風邪発熱の主人に代って見送って下さった。その節同氏分担執筆の「ビタミン研究五十年(ビタミン五十年記念事業会刊行)一冊が贈られた。松川博士は、わたしの教室同人でもあり、松川のアノイリナ(ゼ菌MM菌)発見者である。細菌性脚気の本態究明の業績が世界的に喧伝せられると言った高名の仁。

午後二時上野安着。直ちに母校に帰り復命した。今般の見舞旅行中一貫して北陸としては珍らしい程の晴天に恵まれ、恙く大命を果すことが出来たことを喜ぶものである。北陸四県は申すに及ばず、大阪を始めとして全国の被災の同窓、同業、国民の一日も早い復旧と、ご健勝を祈って筆を措く。(九月二十七日脱稿)

四国の台風お見舞いに使して

教授 三崎 鈔 郎

松山市で開かれた四国地区歯科医学大会に出席した私は、引続き四国四県の第二室戸台風による被害をお見舞いすることになった。愛媛県は学会の地元だったので、九月二十四日学会の後で開かれた同窓会の席を利用してお見舞いしたが、幸いここは被害がなかった。事実松山市内も一寸歩いたぐらいでは、嵐の跡形も見られなかった。しかし那部のことでもあるので支部長中島佐三先生に県下皆さんへのお言伝をお願いした。愛媛県の下は香川県である。高松で支部長大西弥吉先生をお訪ねしたが、ここもまた幸いがって県下同窓各位へのお言伝をお願いし、一時間ほどで辞去した。台風の進路に当たった徳島は、和歌山、大阪ほどに酷いのではないかと緊張したが、なるほど高徳本線を南下し白鳥あたりまで来ると、家々の屋根が剥げ、羽目板が落ち、塀がぐずれ、被害は本格的である。徳島の二つ三つ手前であったろうか、米津歯科医院の立て看板が

ひっくり返っていたのは痛ましかった。この支部長宮井章良氏の案内で徳島市中を一巡したが、猪子寿一(昭和一八・九卒)、大塚温(昭一三卒)両氏宅が床上没水の被害を受けおられた。両氏宅とも後片付けがやっと一段落という有様であった。長老大家熊太郎先生宅では従業員一人が水没という。これはまた人命に関する被害であった。大体ここは高潮と満潮の時刻がぶつかったのでひと息に水が上り、また瞬く間に退くという急激な水難が主であったようである。那部にも相当な被害の同窓があると聞いたが時間がないままに、あとを宮井支部長に托して高知に向った。大変なお世話になった宮井章良、賀川季胤、米津武之助諸兄に深謝する。

徳島本線に不通箇所があったので池田を通らず、高松へ戻り、土讃線を利用して高知市へ入ったのは二十五日の夜だった。翌二十六日午前支部長横矢重和先生の車と案内の方を(六頁下段へつづく)

母校だより

◎歯科医療班沖繩派遣

沖繩島民の歯科診療に従事する歯科医療班として、本学から氏家英峰講師(口外)、服部玄門助手(保存)及び高梨恒一助手(補綴)の三名が去る八月二十三日羽田を發ち沖繩に向った。目下、現地で大いに活躍、島民から深謝されている由。尚、今回の派遣は九、十、十一月の三ヶ月間であり、その後は、他の大学から選出された歯科医療班と交替することになっている。

◎学内インターホンの設置

学内教職員に対する緊急連絡、又は時間外の外來電話の連絡等については、今後学内地道から新、旧館含めての計二十処所に新設されたインターホンによって、極めて便利に能率的に行われるようになった。

◎第三十回歯科医師国家試験施行

本年度二度目の第三十回歯科医師国家試験は十月一日より行なわれたが、本校における実地試験の受験者は二十九名(そのうち五名は他校出身者)であった。

なお試験科目は次の通りである。

筆記試験 十月一日

臨床五科目(保存、口腔外科、補綴、矯正、口腔衛生)および基礎三科目(薬理、病理、細菌)実地試験

診断 (十月五日)

充填 (十月六日)

補綴 (十月七日)

◎人 事

講師昇任

岩野 孝助手(放射線)

成毛二郎(口外)

三六・一〇・一

辞任

市川暢夫講師(口外、休職中)

三六・七・一五

山岸昭平助手(保存)

三六・八・三一

築瀬六朗助手(保存)

三六・七・三一

辞職

須田真知子(図書館)

三六・七・一五

新任

服部由紀子(図書館)

三六・九・一

非常勤講師依頼(三六・七・一一)

森内 護(口外)

懸田利孝(補綴)

御 礼

過日、関根永滋教授外遊に際しましては種々御高配を賜りかつお見送り戴きまして誠に有難うございました。

書面をもって御挨拶申し上げますが、混雑のため失礼した方々もあるかと存じまして本紙をかりまして厚く御礼申し上げます。

保存学教室 保親会

三十六年 会 員 名 簿

近く完成配付の予定

今回、四年ぶりに同窓会員名簿改訂を企画し、会報その他におきまして御協力をお願い致したところ、積極的な御援助と御協力を戴きまして、近く完成のはこびとなりました。同窓各位に対し厚く御礼申し上げます。

なお、名簿は近くお手もとに達することと存じます故、御受納下さいますよう御願ひ申し上げます。

名簿改訂委員

陸上競技部の偉勳

本年八月二十七日久留米市高良台陸上競技場において開かれた第二十二回全日本医歯薬獣医大学対抗陸上競技選手権大会に参加した本学陸上競技部選手一同は地元同窓の絶大な

優勝Ⅱ東歯大、二位Ⅱ慶大医学部 三位Ⅱ久留米医大、四位Ⅱ名市大 薬学部、五位Ⅱ新大医学部、六位Ⅱ日大歯学部、七位Ⅱ広大医学部 以下略。

御 礼

先般の全日本医歯薬獣医大陸上競技選手権大会出場の本学部員に対し物心両面に絶大なる御声援を賜りました地元同窓各位に対し心から感謝申し上げます。

学 長 福島秀策
陸上競技部長 瀬端正之
近藤三郎
山崎 謙

御 礼

先般跡地阿倍野体育館において行なわれました全日本医歯薬獣医大学卓球大会に出場いたしました本学卓球部員に対し、炎暑の中連日御声援賜りました同窓各位に深甚なる謝意を表します。

学 長 福島秀策
卓球部長 近藤三郎

(五頁下段よりつづく)

拝借し、市中を一巡したが、どのお宅にも被害がなかったのは嬉しかった。強いていうならば、岸正明氏宅の煙突一本倒壊を報告しなければならぬ。ここでもまた郡部を廻れなかったのは残念であり申訳なくもあったが、私自身の余儀ない事情のためあとを横矢先生にお願いし、先生と金子英彦氏のお見送りのうちに午後一時半全日空の飛行機で群青の空を大阪へ向った。鳴門海峡が白い泡を囃んでいたのはこの旅の目的が目的だけに一入凄愴だった。

被害にも拘らずお見舞できなかつた同窓各位にお詫び申上げるとともに各地でお世話になった皆様はこの紙上を拝借して心からのお礼を申し上げたい。(昭三六・一〇・八)

第九回日本歯科医学会

総会開催御案内

第九回日本歯科医学会総会は来る十月十九(木)二十(金)二十一日(土)の三日間にわたり東京において開催されますので御案内申し上げます。

総 会

日時 十月十九日(木)

午前九時〜午後四時

会場 九段会館

専門分科会

各専門分科会はそれぞれ左記の会場において十月二十日(金)十月二十一日(土)の両日にわたり、午前九時より午後四時乃至五時まで行なわれます。

増改築進捗中の

市川病院を訪ねて

今年の夏期休暇を利用して、福島学長を始め、齋藤・溝上両副学長、杉山学監、大井院長、高達の諸教授は、酷暑の中を、市川病院増改築、口腔衛生学教室、アイソトープ研究室、歯科衛生士学校講義室等の増築計画を完遂致すべくかねて公募中の学債募集の実をあげるため全国各地に同窓を訪問された。御承知の如く学債募集の金額は二億円、巷口金五万円であるが、利率が年八分という高利廻りであり、元金の返済もまた確実であるとの説明をちきちきにかが、幸い各地同窓諸氏の御賛同、御協力も絶大なもので、着々所期の予想に向われているとのことである。この学債による第一の目標は、市川にある本学市川病院外来患者診療室並びに病棟増改築が主眼との由から、筆者らは夏の一、市川病院を訪れてみた。総武線市川駅は、水道橋駅から国電に乗って三〇分、近頃では、日曜を除いて御茶の水駅での乗換えも必要としない。

直ちに市川駅前から市内循環バスに乗車、僅かに七・八分で市川病院前と云う停留所に着く。病院前の道路も舗装が完了し、往年の泥んこ道とは大変な違いである。

午前中は市川病院前で、バスの乗客の大半が下車して仕舞うとのこと。もっとも九時前後は次の停留所、東京歯科大学前という進学課程

への通学の学生諸君が大きな比重を占めているようだ。

さて、バスから降りると、向って右側に旧外来病棟が七月中旬から開始された取りこわし作業を完了して古い材木が集積されているのが見られる。正前の仮外来病棟は、昨年まで第六病棟と呼ばれていた耳鼻咽喉科、産婦人科、小児科の外来診療室と二階に十数室の病床を有していた場所、これに旧予科時代の物理化学の実習室を結びつけた二階建の建物からなっている。聞く所による



取こわし中の旧外来病棟

と、戦時中病院前にある日本パイプと云う会社の青年学校校舎の跡だとのことである。しかし建物の前の空地には、色とりどりの自動車台十台近くパーキン

グしてある。正面玄関より一步病院内に入ると、受付は患者の列である。木造の古い建物ではあるが、塗装の色も明るい。想像して来た以上の活況に目をみはった。

歯科は旧化学実習室の跡を診療室として使用している。内科は物理実習室の跡である。しかし、かなり簡素な整備がととのい、明るい診療室である。この両科の患者待合室は一ぱいの患者で、廊下にも多くの人が立っている。



仮外来病棟の玄関

産婦人科、外科、整形外科、小児科、耳鼻咽喉科と各科を一渡り見学して廻った。どの科も想像以上の混雑振りである。

産婦人科も病室を増加したとのことであったが、たちまちに満床。手術室は旧予科食堂を改装したもので、ここだけは冷房完備の由、各科共用として、手術室の前には患者輸送車が三台並んで、手術が終り、患者を病室に搬ぶのを待っている。ここを通過して結核病棟(三病棟と呼ばれている)五病棟を一廻り見学した。市川病院には現在一八〇床のベッドがあ

るとのことであるが、患者の疾病の種類、男女別等の関係から一七〇名を越えた入院患者を抱えると病室の割り振りが付かなくなるとのことであった。筆者らの聞く所では各科病室を獲得するのに一苦労だとの由。

白衣の看護婦諸嬢が病院の廊下を右に左にまめまめしく立ち働いている。丁度、学部三年の学生諸君が、夏期休暇を利用して病院に見学に来ていた。主に内科、外科、小児科の見学だとのことであるが、皆んな喜んで「来て良かったと思う」と話してくる。医局の先生の後に附いて聴診器を手を廻診していた。

市川病院は本年三月迄、大井清教授が院長として就任して居られたが四月に水道橋の東京歯科大学病院長に転出され、整形外科部長兼副院長であった野口好之教授が院長に就任された。

歯科には高遠教授、加藤倉三教授、川島康助教授、萩原和志講師、大井一正講師の他助手三名、副手二名、研究科生一名、技工師二名、歯科衛生士一名、看護婦二名、見習二名と云う編成である。高教授は病院の顧問に就任され、部長は加藤教授、医局長が川島助教授、診療のかたわら隣接医学との協同研究、新治療分野の開拓を研究の主眼にしているとのことである。

内科は部長鈴木弘造教授、和田知雄助教授、川村顕講師、荻野通講師、長嶺弘毅講師、看護婦三名と云う陣容で、圧倒的に多数の入院患者を擁し活躍している。来る十一月の東京

歯科大学学会には鈴木教授が「口腔疾患と臓器反応」と題する特別講演をされる。恐らく、市川病院開設以来の貴重な研究業績の発表として、学内挙げて期待している。

外科は部長中島哲夫教授、加藤繁治助教授、保坂助手で運営され、新設に近い部乍ら既に大きな実績を挙げているとのこと。

整形外科は野口好之教授が部長であるが、院長多忙の際は神野一助教授が部長代理をつとめられ、山内講師と共に活躍している。

耳鼻咽喉科は、川勝道夫講師が部長代理で太田助手と共に手術に外来患者診療に奮闘している。

産婦人科は大野虎之進助教授が部長で、山之内講師と共に、文字通り昼夜を分かたぬ奮闘である。歯科、内科以外の各科は看護婦二名であるが、この科には他に助産婦が一名いる。

小児科は部長が松尾武夫教授で山野助手と診療、研究に活躍している。以上が各科の概況としてどうか。て来たが、病棟を含めると五〇名を超える看護婦、総員一二〇名を超える教職員を有した市川病院が、全員一致並々な努力のうちに大きく膨脹しつつある姿は、誠に強く胸をうち感激をおぼえた。

希わくば、同窓諸氏も折を見て、是非目の当りに一見されんことを切望する。

お願
次号(第83号)会報原稿締切は十一月末日です。
御投稿を御待ちします。

学位受領者紹介



杉山幸人君

昭和二十八年母校学部卒業後、三重医科大学病院に勤務。その後、同三十二年十二月同

大細菌学教室に専攻科生として入室、堀川教授指導の下に研究に従事同三十五年十一月九日同医大教授会(主査堀川教授)にて学位(医学)論文通過(昭和三十五年十二月十九日文部大臣認可)。謹祝。(三重県出身・三重県一志町開業)



武石義弘君

北海道出身、昭和二十六年母校卒業、卒業と同時に開業の多忙のなかを、母校保存学教室に研究生として入室、関根永滋教授指導のもとに主として保存臨床についての病理学的な研究に従事し、三十四年には研究を完成、同年十一月神戸医科大学に学位請求論文を提出。こえて三十五年一月七日、同大教授会において主査藤田教授副査家森、波多野尚教授のもとに審査の結果満場一致これを通過し、同年二月二十二日文部省より認可された。

なお、現在自宅文京区根津八重垣町五番地で診療に従事しているのみならず、母校非常勤講師として活躍しておられる。謹祝。
主論文 支台形成が歯髓に及ぼす影響並びにその処置に関する臨床病理学的研究、日本保存歯科学雑誌、二巻、二号、昭和三十四年十月)



笠井俊夫君

昭和十四年母校卒業後、第一ホテル歯科室、東京都立駒込病院歯科部ワイブラ附属診療所に勤務後、新橋に第一歯科診療所を開設。昭和三十一年三月東京慈恵会医科大学法医学教室研究科に入学石川光昭教授に師事し、血清学を専攻す。昭和三十四年十二月二十一日提出の学位論文が同大教授会を通過、翌三十五年二月二十五日附学位記が授与された。謹祝。

主論文 一種の薬物に対するHypo-sensitivity と他の薬物に対する過敏性との関係について (アレルギー月) 一、八巻、二号、昭和三十四年七月)



田本博猛君

大正八年米子市生れ。昭和十二年米子中学卒業後東歯入学、十六年の卒業である。十七

年より二十一年まで満州にて軍務に服し帰国後、臨床および基礎医学の研究に異常な熱意を傾注された。種々な研究経歴を経たのち、鳥取大学医学部生理学教室(主任山田守教授)に入室、その成果の集大成を行なわれた。三十四年慶応義塾大学に学位論文提出、同年十二月教授会通過、三十五年学位記受領。先生の論文は従来、検討されることの少なかった歯肭内感覚器の電気生理学特性を検討したものである。現在、県歯科医師会副会長を始め同関係の各種公職を持たれ活躍されている。謹祝。

主論文 歯肭における感覚受器について(米子医誌十巻、四号、昭和三十四年七月)



伊藤藤広君

大正七年鳥取県生れ。昭和十一年鳥取第二中学卒、東歯十五年の卒業である。各種研究経歴を持たれた後、三十三年鳥取大学医学部生理学教室に入室。歯牙の生理学および補綴学的移動を光弾性学の応用によって検討するという問題に非常な熱意をもって取りくまられた。その状態は二次元的実験より三次元の弾性実験にまで研究を推進せられた論文の内容が、そのまま物語るものと考えられる。成果の主論文は副論文数篇と共に三十四年慶応義塾大学医学部に提出、加藤元一教授主査によって三十五年一月同教授会通過、三月三日学位記が受領せられた。謹祝。

主論文 歯牙移動に関する光弾力学的検討(米子医誌十巻、一号、昭和三十四年二月)



上山松吉君

大正九年鳥取県出生。昭和十三年鳥取第一中学卒。昭和十六年本学卒業。昭和十七年より北支・南海方面に従軍、二十一年無事御帰還された。その後、国立鳥取病院その他にて臨床ならびに基礎医学の研究に従事され、豊富な研究経歴を持たれ三十三年鳥取大学第一生理学教室に入室。主として歯肭における感覚器について研究された。先生の業績は従来検討されておらなかった歯肭の感覚器の生理学的諸性状を電気生理学の立場より明らかにする極めて有意なものであった。三十五年鳥取大学教授会通過、続いて学位記を受領された。県歯科医師会理事、開業(同県国府町宮の下)。

主論文 歯肭における圧受容器について(米子医誌・十一巻、二号、昭和三十五年二月)



倉田環君

岡山県立矢掛中学を経て昭和六年母校卒の同級生。母校卒の同級生。直に満大病院歯科に奉職せられ、同九年奉天市で開業。終戦の翌年引揚げ、次で現住所の福山市鞆町五五四で開業された。感ずる所あり、同三

十年に広島県立医大専攻生となり、バス、汽車で四時間もの遠路細菌学教室に通われた。螢雪の功なり、予て提出中の論文は同三十五年十二月二十二日の同大教授会にて占部薫教授主査の下満場一致通過し、本年二月八日付学位記が授与された。新博士には澄子夫人との間に一男二女あり。慶祝。

主論文 歯牙細菌及一般病原細菌のカンジタに対する抑制作用に関する知見補遺(原著・広島医学八巻十一号、昭和三十五年十一月)(河辺清治記)



太田秀夫君

道立小樽中学を経て、昭和八年母校卒。同十一年末現住所の小樽市入船町五ノ五で開業同十三年応召。北支方面で現地除隊し、同仁会蘇州診療班歯科医長となる。終戦時の春、再応召し翌春復員して医院を再開。その頃私が渡道し在宅のまま入門を許し研究を始められた。その後正式に当教室に籍をおかれ吉田千里学士の応援も得て研究が進展した。予て提出中の論文は昨年十二月十六日順大医学部教授会にて同仁会時代の同僚土屋教授主査の下通過し、本年三月三十一日付学位記授与さる。慶祝。
主論文 咯痰中結核菌に関する研究特に塗抹陰性例についての統計的観察(順天堂医学雑誌、七巻一号、昭和三十六年二月)(米沢和二記)

岡村親和君



東京開成中学を経て昭和十九年母校卒。創立駒込、広尾病院歯科勤務中、故奥村先生の

推薦で、戦後早く慶大病理学教室に入られた。悪性腫瘍の病発の完成を目前にして青木貞章教授の病発にあわれたので、私の紹介で母校微生物学教室に転じ米沢和一教授の下で研究を続行せられた。予て提出中の論文は昨年十一月十一日の順天堂大学医学部教授会にて土屋教授主査の下通過し、本年三月二十八日付、学位記が授与された。新医学博士は三十八才の働き盛り。板橋区上板橋三ノ六〇五八で自宅開業中であり、内科医喜美夫人との間に一女あり。慶祝。主論文 猿の口腔スピロヘータの形態に關する螢光顕微鏡的研究(順天堂医学雑誌、六卷六号、昭和十五年十二月)(溝上喜久男記)

金子康雄君



同窓の長老故新蔵氏の四男で、昭和四年盛岡の生れ。岩手中学を経て同二十七年母校卒。

岩手医大細菌学助手になられ研究に専念せられた。同三十二年春、盛岡市肴町四八の亡父の歯科医院を直ちに継承して目下盛業中。予て提出中の論文は同三十五年二月の同大学教授会にて主査、田沢芳三郎教授の下満場一致通過し、越えて三月三十日付医学博士の学位記が授与された。

新博士は温厚にして努力家。開業のかたわら研究を続行しておられ、美容形態学の造詣も深い由。なお県衛医学会學術委員でもある。家庭には母堂の他静子夫人との間に一男あり。同三十年母校卒の舎弟末義君は東京駅前国際歯科医院勤務中。慶祝。

主論文 長期感染プルセラ症の治療に關する実験的研究(日本伝染病学会雑誌、三十三卷八号、昭和三十四年十一月)(橋口純徳記)

河辺清治君 明治学院中学部を経て昭和六年母校を卒業し、矢崎教授の母校補綴学教室に勤務。同十四年内務省嘱託医となり同十九年南支方面に應召、終戦の翌年復員。開業の傍ら母校基礎補綴の講師、助教をへて同二十三年私の推せんて教授に昇任された。学制変更により非常勤講師として今も学生実習のお世話を願っている。先年母校米沢教授の紹介で伊藤秀三郎教授の生理学教室に入り戦前より継続の発音の研究を完成。予て提出中の論文は同三十四年五月二十五日の東大医大教授会にて村瀬正雄教授主査の下満場一致通過し、七月十三日学位記授与さる。新博士は大田区雪ヶ谷町八四二に住み銀座の診療所に通勤。「線鈎」の著者で、母校山岳部生みの親でもある趣味は登山と写真。ミネ子夫人との間に一男あり。慶祝。



室助教授に迎えられ現在に至る。予て金竹教授の御指導の鐵接部腐食の研究が完成したので、本学生理学伊藤教授の御校閲紹介で提出中の論文は、同三十六年二月二十二日の東邦医大教授会にて朝比奈一男教授主査の下通過し、三月三十一日付医学博士の学位記が授与された。新博士は旧姓森下、本学名会計部長たる故佐藤義三家を継承せられている方。喜久子夫人との間に一男あり。サク未亡人はご健在。趣味は登山と写真。慶祝。

二号、昭和三十四年十二月)(北村勝衛記)

佐藤敏治君 神奈川県出身の同君は、北支那方面に應召、昭和二十一年復員、同二十四年日大工学部を卒業し、同大学有機合成化学三羽教授研究室に勤務。同二十六年日本齒研工業に入社して技術部長に昇進。同三十三年二月、本学理工学教室助教授に迎えられ現在に至る。予て金竹教授の御指導の鐵接部腐食の研究が完成したので、本学生理学伊藤教授の御校閲紹介で提出中の論文は、同三十六年二月二十二日の東邦医大教授会にて朝比奈一男教授主査の下通過し、三月三十一日付医学博士の学位記が授与された。新博士は旧姓森下、本学名会計部長たる故佐藤義三家を継承せられている方。喜久子夫人との間に一男あり。サク未亡人はご健在。趣味は登山と写真。慶祝。



近藤健一君 青山学院をへて昭和十六年秋母校卒。大連市立聖愛病院歯科脇恒彦院長の下に勤務、翌

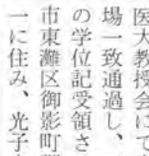


年南支に應召、同二十一年春復員し、都庁職員診療所長生田信保博士の下に勤務し今日に及んでいる。感ずる所あってか生田所長の紹介で日本医大薬理学教室に入り、学位論文に精進せられることとなった。予て提出中の論文は同三十六年二月二十五日の同大学教授会にて栗秋要教授主査の下満場一致通過し、三月三十日付医学博士の学位記が授与された。新博士は大田区上池上町一〇〇四に住み、喜み夫人との間に一男一女あり。趣味は旅行に釣。慶祝。

主論文 歯牙及び骨組織の炭酸脱水酵素活性及び本酵素並びにフォスファターゼに及ぼすアセチルアルシド、弗素塩、副甲状腺の影響(大日本歯科医学会雑誌、三卷、二号、昭和三十五年十月)(米沢和一記)

徳永道秋君 広島県生れで、県立福山・誠之館中学を経て昭和十年母校卒。口腔外科で故遠藤教授の指導を受けて日本橋白木屋歯科、同十七年大阪、阪急歯科診療所長として赴任して今日に至る。同二十九年より京大解剖学・舟岡省五名誉教授(現、岐阜医大組織学教授)の指導を受く(鈴木忠房改め啓之博士の紹介)。同三十六年一月二十五日の岐阜医大教授会にて舟岡教授主査の下満場一致通過し、三月一日付医学博士の学位記受領さる。新博士は、神戸市東灘区御影町郡家千本田一二二ノ一に住み、光子夫人との間に一男あり。趣味は、魚釣にスポーツ。慶祝。

松本実君 大阪府立堺中学を経て昭和二十六年母校予科卒、同二十九年学部卒である。林、片山家と並んで大阪の東歯大御三家たる同窓の長老・松本績博士の長男。同じく現同窓会副会長・片山清一ドクトルの長男・和夫博士と相前後して、セッセと私の微生物学教室に通われたものである。螢雪の功成り、予て提出中の論文は同三十五年五月二十六日京都府立医大教授会にて、鈴木成美教授主査の下満場一致通過し、八月十三日付医学博士の学位記が授与された。新博士は堺市上野芝向ヶ丘三ノ一三〇二に父母と同居し、夫人との間に一男あり。大阪市内区土佐堀一丁目大同ビル診療所に通勤しておられる。趣味は、魚釣にスポーツ。慶祝。



主論文 ポツリヌス菌に關する研究(京都府立医大雑誌六十八卷、一号、昭和三十五年七月)(米沢和一記)

在学中の長男と二女あり。趣味は、スポーツ、釣、写真、園芸など。ロイターアンでもある。慶祝。



主論文 齒骨象(牙質)組織液中の磷酸塩の研究(独文)(リンファトログリア四卷、一号、昭和三十五年)(米沢和一記)

クラス会 便り

壬戌会

秋冷の候となって来ました。皆様御元気で御活躍の事と思います。去る十八号の台風では大阪北陸新潟方面の各位に於かれては被害も僅少で済んで何よりと存じます。去る六月北陸の山中温泉で大会を催し、全国より多数の出席者があり非常に盛会であったことは前号の同窓会報でお知らせ致しましたが、来る十一月の同窓会総会を期して卒業三十五周年記念大会を湯河原温泉の三好荘(同級生吉川初太郎君経営で新館も落成の予定)に於て開催いたします。何卒万障繰合せ全国より賑々しく参加下さいませ御案内申し上げます。集合場所 十一月十一日(土)午後四時母校一階ホールに参集し出発す、直接湯河原に行かれる方は幹事、古川君宛御一報下さい。

宛先 江東区亀戸町一ノ一二三(電六六四三九二)

大会日時及び会場

十一月十一日(土)午後六時湯河原温泉三好荘

十一月十二日(日)同窓会総会の為朝解散

三辰会

例年の如く、同窓会総会当日、夕刻より開催致します。明年は卒業三十周年になりますので、アルバム作

製など大々的記念行事を企画中であります。本年総会はその準備をも兼ねております。是非御出席の程を御意見を承り、衆知を結集したいものと、幹事一同張り切っております。会費は一五〇〇円、会場は御案内状を差し上げますが、学校の近くの予定です。御出席不能の各位におかれましては、ハガキで結構ですから、こんなことを希望すると、一言でも幹事宛御知らせ下さいれば幸です。幹事長は加藤孝彦、会計は清水正一、庶務は佐藤正夫、企画は関英雄です。

四海会

久々に東京を離れて、一夕学生時代を思いつつ、また、現在の身の廻りのことを併せて、いろいろと語りたいたものと左記のような企画をたてました。お誘い合せ多数御参加下さい。日時 十一月十二日(日)一泊朝食後解散

一、会場 熱海温泉さくらや旅館。電話熱海二三三三・三〇一一・五五〇九

一、総会 午後五時半

一、懇親会 六時半〜九時半

一、会費 参千円

十月下旬までに申込んで下さい(現金をつけて) 委員長 山本義茂 副委員長 小坂 力 清信静夫

鹿鳴会

本年度の第二十三回鹿鳴会総会並びに懇親会は幹事会において、母校同窓会総会開催日の前日、十一月十一日(土)午後六時より上野、日本観光閣にて催はすことに決定致しました。例年は本年は前日ですから、お間違いのないように願います。詳細については、いづれ御通知は致しますが、今から御準備頂いて、昨年同様に万障御繰り合せの上、賑々しく御出席願います。特に地方会員の多数御参加を御期待申し上げます。

次々に今度の台風による水害被災者としては高橋正武君(大阪市港区夕風町三ノ二七)恩賀国五郎君(和歌山県田辺市湊山崎九一九)が本部に報告されております。殊に高橋君は床上浸水一米との由、本紙をかりて御両人に対して謹んで御見舞い申上げ、併せて会員各位に右の次第を御通知申上げます。一日も早く平常診療にもどられることを祈念仕ります。(木村吉太郎)

燦志会

本年は卒業二十周年の年でありますが、十一月三日午前九時京都駅前集合、京都見物、有馬温泉、六甲山ドライブを行ないます。なお十一月十二日母校同窓会の夜は、東京においても二十周年祝賀クラス会を開きますが、会場は母校に当日掲示致します。

何卒振って御出席下さい。(山本、天野)

一志会

先々号で、来年のクラス会は、卒業二十周年を記念して盛大に開催したい旨お知らせ致しましたが、今年はその準備会ともなろうかと思ひ東京で開催することにしました。期日は、十一月十一日(土)に東京歯科大学学舎がありますので、それが終了後、六時半頃より始めるつもりです。十二日の日曜は、行楽の季節でもあり、家族サービスの予定もあり、うし、また、地方の方は、日曜に帰られる人もあろうかと、配慮のもとに土曜日とした次第です。都合をつけて是非出席して下さい。

近日中に往復ハガキで詳細を御案内致しますが、名簿の整理上、欠席の方も必ず御返信下さるようお願い致します。なお、二十周年記念クラス会についての御意見、御希望等を御寄せ願えれば幸いです。

二六会

いよいよ待望のクラス会が再びやってきました。今年には伊豆長岡で盛大に開催する事にしました。一年ぶりに久闊を敘したいと思ひます。会員諸氏奮って御参加下さい。

尚、連絡が近く御手許に届くと思ひますが、返信欄に近況、学友連絡等があります。これは二六会月報の創刊号に携載いたしますので、出来だけ委しく、且つ御早く必ず御返信下さいませ御願ひいたします。(田中武臣、水津靖、熊谷一義)

五十一期会

豪雨に早速御見舞申し上げた所岐阜の河合年朗君兵庫の有馬良治君が床下浸水の被害を受けられました。尚その後集中豪雨に依り被災された会員諸君があることと思ひますので誌上に御見舞申し上げます。さて関西にて開催予定の本年度総会は本件に関し主にお世話していた村田幹事長が去る七月十六日交通事故の為重傷を負われ準備不行届の為残念ながら本年度に持越し本年度は例年通り東京にて開催致し度いと思ひますので悲しからず御了承下さい。追って詳細は御通知致します。(幹事)

猛暑の最中、八月十八・十九日の二日間に涉り第十六回本年度級会総会を景勝地派名湖弁天島にて開催、同伴者を加えて三四名の参加でした。地元のプロック代表小野田君始め、宇藤君、森君、手島君、深美君等の御助力と御骨折で諸事万端準備は完了し、定刻六時には懐しい顔や一年ぶりにみる顔やら、出席予定者全員が到着し、誠に快調な入り出でした。又増田夫人、酒井夫人、小沼夫人、八百枝夫人、手島夫人も出席され錦上添花をそえて下さった。総会議事進行してやがて開宴となり、互いに旧交を温めつつまさに酣に入る頃、美妓の踊りや唄に益々佳境になり、くめどもつきせず、のめどもつきぬ大盃を傾け、いざいざ飲まんとはべりし吾等が持は、酒香童子も顔まげの酒宴とは相成った。午後九時頃に一応閉宴とし、あとは二次会で

去る六月下旬全国的に襲った集中

……というわけで二日市、太田、森君の自家用車に便乗し一路浜松へ……再びネオンの巷、夜のムードにさそわれて飲むほどに酔ふほどに楽しい一刻をそれぞれに満喫した。頃宿に戻り夢に托して一夜をおくった。翌朝午前十時より浜名湖廻りに出発。湖とは思わぬその眺望には一同ただただ絶讃した次第。途中館山寺で昼食、暫らく休息して又舟上の人となり快晴に恵まれて日やけた顔、顔、顔……。予定コースの観光も終り午後四時頃に帰着して無事にとどこほりなく、目出度級会総会を終了した。又来年の級会総会での再会を堅く約しつつ別れた。特に申上げたのは、御家族同伴の方々も年々増加される傾向にあり、本当に嬉しく思います。来年以後は一層多数のカップルが参加される様切望致します。終りに色々と級会開催に当って御助力下さった地元の小野田、宇藤、森、手島、渥美の諸兄に対して心より厚く御礼を申し上げます。

〔出席者〕 正岡・八百枝・武井・関根・岡・片山・桜井・小沼・鶴岡・増田・酒井・二日市・小野田・宇藤・森・渥美・手島・太田・井本・安倍・川崎・増田夫人・八百枝夫人・酒井夫人及び御子息二人・小沼夫人及び御子息・手島夫人及び御子息二人・片山君御子息・太田君御子息以上三十四名参加。では全国学友諸兄の御健勝と御活躍を祈ってペンをおきます。(幹事鶴岡記)

五十二期会

敗戦のどん底時代、水道橋の一角

に焼残った母校を第一回国家試験という新しい試験に挑みつつ世に出てから早十五年、あの困苦欠乏に耐えて母校の名を傷つかなかった同級の士よ、今は全国各地で中堅歯科医師として大活躍の事と信じます。卒業十五周年の記念祝賀会は関西方面でという予定を、東京の幹事より承わり、大阪の本村静一君(ライオン)と同じく長安君(阪大)そして筆者(滋賀)の三人が相咨ったが、本年は東京で日本歯科大学大会が行なわれるので今秋の開催は無理だろうという結論になった。御期待の向きには全く申し訳ないが何れ在京幹事の方々と御相談して新しくプランを建てるつもり故、今しばらく御猶予下さい。(佐藤守)

いとし会

先般お報らせ致しましたクラス会の件次の如く決定致しました。日時 十一月十一日(土)午後五時 場所 池袋白雲閣 会費 二千五百円(クラス会費共) 幹事 森本、龜井、高野、吉田 追って案内状を発送致しますが、何卒万障繰合せ出席して下さい。(明葉)

いそむ会

いそむ会の皆さんお元気ですか。とくにこの度の十八号台風で被害を受けた方はございませんか。心配しておられます。私は五月、六月に亘って、台湾医学会の招聘で渡台し、歯科法医学や、口腔外科学などについて各地で講演し、さらに香港、沖縄

歯科医師会の招きで歯科事情は勿論の事、警察局の要請による歯学捜査の講演などに走り廻っておりました。帰国後、郷里の埼玉県警刑事部の御手伝いなどに忙殺されて、わが「いそむ会」の事務も遅れ、皆さんに御迷惑をお掛けしてしまいました。幸い瓜田、檀田、山田及び武井各氏の御努力によりまして、次の如き計画で総会を開くことが出来ました。何卒奮って参加されますようお願い致します。御願ひ申し上げます。

なお、この件については、皆さんに直接御通知申上げましたが、是非共十月十日までに御返事を賜わりたくお願い致します。また御返事の中に①より④まで記入事項がございますが、クラスの情勢を知るのみでなく本部よりの御要望もありますので何分よろしく御協力下さるようお願い致します。

千秋会

先日お知らせいたしました通り、十一月十二日湯河原温泉にて第十回のクラス会を開催いたします。出席者は例年より多く、北村君(青森県) 鷺頭訓(新潟県) 岡野君(滋賀県) 上本君(広島県) 続君(山口県) 等々遠方の会員も多数参加されます。卒業以来満九年、いろいろと話につきまないのではないかと楽しみに

みです。当日の様様はいずれ本誌上に報告いたします。(幹事記)

一期会

①たび重なる季節外れの台風、殆んど全国的に大なり小なりの被害が発生しておりますが、一期会諸兄におかれましては、いかが御過しでしょうか、御伺い申し上げます。只今まで、本部において聞知致しましたところでは、一期会々員諸兄で特に罹災なされた方はいらつしやらないように承っておりますが、万一、被害がありましたら、御手数乍ら状況を御知らせ下さい。

◎「一期会会員名簿」改訂版が完成致しましたので、早速御手許に御送り致しました。多少デラックスでせいたく、宛に角、スッキリした感じですが、仕上がりました。完成、発送までの役員一同の努力をよろしく御推察の上、同時に御願ひ致しました「会費」の納入方、何分共よろしく御願ひ致します。

◎既に御案内のように、今回関東地方支部会を東京で開催致しますが、全国各地の諸兄で御都合のよろしい方は、是非共御参加下さい。役員一同、重ねて御願ひ致します。役員一同、同心から御待ち申しております。(見明記)

四期会

秋冷の候となり、諸兄姉には愈々御健勝の事と存じ上げます。さて、恒例のクラス会を左記の次第により開催致しますので、御案内

申し上げます。日時 昭和三十六年十一月十一日(土)午後六時より 場所 銀座末広(松坂屋裏) 会費 二〇〇〇円 なお詳細な事については、後日案内状を発送致します。(幹事)

六喜会

中秋の候、会員諸氏には益々、診療に研究に御精進のことと思っております。ここに第三回総会の開催をお報らせたいと思っております。奮って御参加下さることを期待しております。時 昭和三十六年十一月十二日(日) 後楽園球場レストラン 会費 一八〇〇円 なお詳細に關しましては、當日学校玄関に掲示いたします。次に現在、母校に残っている会員諸氏を御紹介したいと思います。臨床関係では、井上(長)、今泉(口腔外科)、浅井、稲浜、渡辺(肥)、服部(保存)、片岡、田島(補綴)、小川(口)(市川病院歯科)、基礎関係では高橋(理工)、東(組織)、高木(旧吉田茂)(衛生)、以上の十二名。大学院研究科学生(第一期生)は、吉田(滋)、藤波(口腔外科)、堀江(保存)、清水(補綴)、市之川(細菌)、木村(生理)、木津(葉理)、市川(解剖)、大橋(衛生)、枝(病理)以上十名合計二十二名の多くの諸氏が母校において、研究に、学生の指導に若手の中堅として活躍されています(六喜会幹事)

★ ☆ ☆

お願い

〔一〕は明治又は大正の卒業年度を示す

同窓会報八十一号(前号)を皆様にお送りしましたところ、左記の方々に宛への会報が返送されてまいりました。若し、この中にお心当りの方がおられましたら、お手数ながら本部宛お知らせ下さいませようお願いします。

氏名 旧住所

- 松井保次(12) 千代田区大手町二ノ二 野村ビル
原田和雄 15 北区東十条一ノ一四
松富信一 目黒区自由ヶ丘一五八
長沢方
吉田光夫 岡山市上石井一七九
新井正夫 18.9 千代田区神保町二ノ二
下道正士 16.12 宇部市三六号通五
北条信之助(12) 中野区宮園通四ノ二
高橋茂次(9) 盛岡市大通三丁目
池田利輔 7 武雄市宮ノ町
五十嵐保 24 静岡市四番町一

逝去会員

- 住川熊夫氏(4) 美、八、三三 兵庫 庫庫
池上一雄氏 美、八、八 長野 野野
中村欽介氏(10) 美、九、四 千代田 田田
栗原可美氏 美、九、二二 港 区
岡本 薫氏(8) 美、九、三三 広島 島島
斎藤良三氏 22 美、九、一四 福井 井井
北沢隼人氏(12) 美、八、八 長野 野野
萩原容生氏 三三、 兵庫 庫庫
高田正英氏 三三、 富山 山山
豊山 猛氏 3 美、九、二 岡山 山山
松野政市氏 美、九、二 大阪 府府

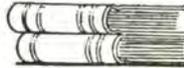
現住所変更(敬称略)

- 杉原伸顕 34 大田区大森一ノ二六四 (旧姓新井)
飯田 昭 36 佐原市上小川六五三
田沢三郎 8 茨城県勝田市中央町一〇〇
横山睦子(衛) 横浜市保土ヶ谷区和田町七九
土屋 真 4 長野県北佐久郡望月町大字布施
小池武夫 杉並区住吉町一四三
三宅通弘 30.9 愛知県豊田市竹生町四ノ一八
竹下忠平(14) 静岡市七間町一五ノ一 電(3) 四二四四
杉本雅英 22 品川区大井滝王子町四四一七
谷口良一 30 札幌市北二条西四丁目三井ビル四階
宮永登起雄(9) 杉並区久我山一ノ二七〇 電(392) 三七五八
森山 繁 13 甲府市塩部町二九三八 電甲府九〇〇五
田中玄太郎 18.9 広島県甲奴郡上下町二〇三六ノ四
岩崎公文 18.9 神戸市垂水区西垂水町字下梅ヶ谷一七九六ノ二四
上原 信 29 千代田区麴町四ノ六土井方
大脇友巳夫 18.9 浜松市常盤町一〇(旧姓山口友七)
○遠州綜合病院産婦人科電(2) 三三三
深山正之 13 富山市石金三ノ一六
柏村 潔 呉市本通五ノ八
毅 14 同 右
彰 16.12 同 右

佐藤 暉 19.9 佐賀県小城郡牛津町七九三

- 佐藤千穂子(衛) 仙台市半子町一番地(旧姓堀部) 片岡方
藤井沖正 26 神戸市葺合区能内町三ノ二五 電(2) 〇五六五
近常良孝 23 岡山市門田屋敷一〇六
二階堂胤平 26 世田谷区鳥山二八五
宇津見暉雄 32 茨城県水海道市栄町三四三五
若佐重吉(7) 神戸市須磨区古川町三ノ七 高浜荘
駒ヶ嶺克吉 34 秋田県鹿角郡花輪町上花輪二〇六ノ六
松本忠夫 12 大村市並松郷一八四ノ一、大村市立病院内科
長島孝夫 33 練馬区仲町四ノ二八
関井康雄 30.9 新津市萱免三五一九 新潟鉄道病院新津分室
杉山恒男 35 千代田区大手町一ノ六 富士銀行ビル松翁会診療所
野村 孝 11 世田谷区祖師ヶ谷二ノ二
松島英二 34 青森県むつ市大字大平字本町浜町通五
山下達郎 16.3 函館市本町九五
山西信広(2) 和歌山市鷹匠町六丁目 電(2) 六〇一五
原田竜太郎 16.12 西宮市甲東園一ノ一四 一電(5) 〇六五二
遠矢東城 30 福井県丹生郡朝日町西田中
三宅淳一 32 福井市佐佳枝中町六〇
市場 保 22 岡山県西大寺市元町三三 一三電西大寺二九一
水河 照 19.9 岡山市上西川七三

図書館だより



第十二号

左に列記したものは最近図書館で購入した専門書の一部です。このリストは逐次掲載されますから、図書目録として御使用になれば御便利かと存じます。

- 〔和書〕
花沢 鼎著 松 7 外科篇
宮誠一、松井隆 中外医学社 昭和三六
菊地 厚、村井竹雄 X線診断図譜 (デンタル・アルバム) 永井書店 昭和三六
田村豊幸 歯科医の薬理学 協同医書出版 昭和三六
W. I. B. Beveridge 著 栗秋 要、科学研究の態度 医歯薬出版 昭和三六
川米達夫 薬用植物図譜 金原出版 昭和三六
〔洋書〕
Dobbs, Edward C Pharmacology and Oral Therapeutics. (Mosby Co.) 1961.
Pickard, H. M. A Manual of Operative Dentistry. (Oxford University Press) 1961
Coley, Bradley L. Neoplasms of Bone. 2nd. ed. (Hoeber) 1960
American Dental Directory. 1961 (The American Dental Association) 1961
Luck, J. M. ed. Annual Review of Biochemistry. Vol. 30 (Annual Review) 1961
Sodeman, William A. Pathologic Physiology. 3rd ed. (Saunders Co.) 1961
Neustadt, Egon A Practical System of Orthodontics. (The Fairfield Press) 1961
Gasser, F. Die Immediatprothese. (Birkäuser Verlag) 1960
Schwarzkopf, H. Die zahnärztliche Röntgenassistentin. (Dr. Alfred Hüthig Verlag) 1962
Handbook of Physiology. Sect. 1: Neurophysiology Vol. 1. 3 (American Physiological Society) 1960
前号(第八十一号)第十一頁七八行目古座谷は古座谷弘、井崎三弘は井崎三郎と訂正致します。